

# 令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

## 1 日時・場所

- 日時：令和8年2月19日（木） 10:00～12:00
- 場所：静岡県立富士特別支援学校富士東分校 コミュニティルーム
- 出席者：委員6名、学校側6名

## 2 議事経過

### (1) 校長挨拶

校長より：分校として初めての卒業生を送り出す時期を迎え、この3年間で「富士東分校」という形を積み上げてきた。本校への志願者が増加する一方で分校は定員内となっている。今後は知的障害の程度を含め、生徒の多様化がさらに進むと予想される。これを受け、本校と分校の連携および、地域における分校の役割を再定義したい。

### (2) 動画視聴及び実践報告

第2回協議会での提言を受けた各学年の取り組み報告

- **1年**：「社会で学ぶことは社会でしか学べない」という視点に立ち、職場実習では企業側にあえて客観的かつ厳しい評価を依頼した。これにより、生徒と保護者が社会の現実を直視し、次なるステップへの糧とする機会を設けた。
- **2年**：卒業後の相談スキルの習得を重視し、スクールカウンセラーを活用した自己表出の練習をしたり、卒業後相談できる機関についての学習を行ったりした。また、青葉台まちづくりセンターでの施設見学・講話を実施した。また、生徒同士が長所を伝え合う「ほめちぎりタイム」を設け、自己肯定感の醸成を図った。
- **3年**：卒業後のセーフティネットとして、関係機関を交えた移行支援会議を実施した。また、社会人としての身だしなみを整えるメイクアップ講座やスーツの着こなし講座など、実用的なマナー学習も展開された。

### (3) 学校自己評価報告

副校長より：教職員による自己評価結果報告。挨拶や他者意識の向上に課題が残る一方で、主体的活動のための時間確保などが進んでいる。授業改善においては、教員と生徒が共に「何のための学習か」を明確に共有できる授業作りを継続したい。また、教職員間の情報共有における「漏れ」を解消するため、議事録のデジタルフォルダー化や共有システムの改善を進めている。

### (4) 校内参観（3年マイキャリア報告会）

3年生が下級生に対し、進路決定までの取組や失敗、そして成功のプロセスを自らの言葉で発表する「マイキャリア報告会」を参観。自らの人生を自分自身で決定する「自己決定」の重要性が体現されていた。

### 3 協議（グループワーク）

共通テーマ「地域社会の中で生徒が活躍する姿をどう増やすか」

共通テーマに基づき、三つの班で具体的な次年度の取組案の検討

#### 【1班：生活・社会参加】

- SNSの双方向活用：現在のInstagram発信を一方通行にせず、コメントやDMを通じた双方向のやり取りができる場へと転換する。他者からの評価や意見を取り入れることで、社会性の向上を目指す。
- 卒業生への継続的相談支援：卒業生が職場で困難に直面した際、Instagram等を通じて専門性の高い教員に気軽に相談できる「心のケア」の窓口を構築する。
- デジタルリテラシー教育：特別支援学校の生徒は情報端末の所持が遅れる傾向にあるが、携帯電話は移動や情報収集に不可欠なツールである。中学部段階からの計画的な情報教育が重要である。

#### 【2班：地域・就労拡大】

- サポーター登録制度の導入：特定の技能（清掃、農作業、工芸等）を持つ地域住民を募る登録制の仕組みを取り入れたらどうか。青葉台地区町内会連合会の定例会（毎月第1火曜日）などの場を活用し、学校のニーズを具体的に発信することで、地域住民が学校に入りやすい環境を整えることができる。
- 農福連携と地域産業への参画：地元の特産であるお茶やブルーベリーの農家での実習、町内会のカレーパーティー等の行事への参加を通じ、地域住民としての存在感を高める。
- 企業の可視化（ホワイトマップ）：障害者雇用に積極的な企業の情報をGoogleマップ等で可視化し、企業側の誇りを醸成するとともに、地域全体での理解を深める。

#### 【3班：教育活動充実】

- 「共生・共育」の呼称再考：現在の「共生共育委員会」という名称は大人主導の印象が強いため、生徒がより身近に感じられるよう、生徒自身が新しい委員会名を考案するなどの工夫を検討する。
- 共通シンボルの作成：富士東高校と分校の繋がりを象徴する共通の旗やマークを作成し、体育祭などで共に掲げることで、両校生徒の所属感と誇りを高める。
- 授業の乗り入れと共同部活動：体育、音楽、美術などの実技科目において、両校の生徒が共に学ぶ機会を段階的に増やす。また、野球部の応援幕作成など、部活動単位での交流も継続・深化させる。

#### 4 委員からの主な意見と総括

- A委員：子供たちは教員が意図した以上に自然な形で共生を実践している。その歩みをプロモーションビデオ（PV）として発信し、地域の漠然とした不安を期待へと変えてほしい。
- B委員：学校の外に出ることで、生徒の抱える「モヤモヤ」を社会に開く。それが社会全体の課題と繋がり、結果として地域全体のウェルビーイング向上に寄与すると考えている。
- C委員：「障害者が働く」という枠組みを超え、「人が働く」という本質を見つめるべきである。また、AIに相談する生徒が増える現状において、リアルな体験や「学校という安全な場で失敗する経験」が重要である。
- D委員：「学校が地域へ出て行くだけでなく、地域が学校へ入る」ことが重要と考えている。町内会としてもサポーター制度などに協力したい。本協議会は中身の濃い充実した会議と感じた。

#### 5 閉会挨拶

会長より、本校と分校が密接に関わるこの3年間の歩みは、全国的にも稀有な先進事例であり、素晴らしい学校文化が醸成されている。

校長より、これまでの実践を単なる「繰り返し」ではなく「積み上げ」として捉え直したい。本日出された多様なアイデアを整理し、分校のさらなる進化へと繋げたい。